

(様式第 10)

聖医大管 第 393 号
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏 名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

聖マリアンナ医科大学病院

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号 電話 (044) 977-8111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	⑦	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	2 消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5 神経内科	⑥血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑩リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	⑦ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ ⑧
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制 川崎市立多摩病院の歯科口腔外科と連携し、歯科の診療体制を整備している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 消化器・肝臓内科 2 代謝・内分泌内科 3 脳神経内科 4 腫瘍内科 5 神経精神科 6 乳腺・内分泌外科 7 形成外科 8 病理診断科 9 リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	0床	0床	0床	1,123床	1,175床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	606人	188人	614.5人	看 護 補 助 者	117人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	人	人	人	理 学 療 法 士	23人	臨床検査技師	110人
薬 剤 師	78人	0人	78人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	88人	2人	89.3人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	40人	0人	40人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1053人	53人	1083.1人	臨 床 工 学 士	40人	医療社会事業従事者	15人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	2人	その他の技術員	59人
歯 科 衛 生 士	0人	0人	0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	273人
管 理 栄 養 士	16人	2人	17人	診 療 放 射 線 技 師	68人	そ の 他 の 職 員	0人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	58人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	27人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	13人
小 児 科 専 門 医	16人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	20人
泌 尿 器 科 専 門 医	5人	麻 酔 科 専 門 医	7人
産 婦 人 科 専 門 医	22人	救 急 科 専 門 医	13人
		合 計	222人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大坪 毅人) 任命年月日 令和 2年 4月 1日

業務経験

・平成29年4月1日より医療安全対策委員長及び医療安全管理担当副院長に就任。

業務内容

- ・毎月1回医療安全対策委員会へ出席し審議。
- ・院内のインシデント・アクシデント報告を受け、案件により臨時医療安全対策委員会開催を指示。
- ・医療安全管理室より案件報告を受け、毎月1回病院としての対応を協議。
- ・毎月1回患者相談全記録の確認。
- ・全国医学部長病院長会議等からの『医療安全情報』を確認し、当該部署へ情報提供。
- ・日本私立医科大学協会の相互ラウンド(当院への訪問)に参加。
- ・医療安全関連の教職員研修会に参加。
- ・横浜地方裁判所の医療訴訟関係協議会へ出席。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	712.8人	0人	712.8人
1日当たり平均外来患者数	1836.6人	0人	1836.6人
1日当たり平均調剤数	入院 1091.4剤	外来 132.7剤	
必要医師数			181人
必要歯科医師数			0人
必要薬剤師数			24人
必要(准)看護師数			357人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室 (※内訳、下記参照)	784.8 m ²	RC造	病床数	40床	心電計	㊦・無
			人工呼吸装置	㊦・無	心細動除去装置	㊦・無
			その他の救急蘇生装置	㊦・無	ペースメーカー	㊦・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 98.88m ² [移動式の場合] 台数 3台		病床数	10床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.5m ² [共用室の場合] 共用する室名薬剤部 (TDM室 薬物血中濃度モニタリング室)					
化学検査室	360m ²		(主な設備)	フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置 純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置		
細菌検査室	153m ²		(主な設備)	測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心機、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等		
病理検査室	385.96m ²		(主な設備)	システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染色装置		
病理解剖室	134.81m ²		(主な設備)	解剖台、高圧滅菌装置、真空バック装置		
研究室	1,874.54m ²		(主な設備)	遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置		
講義室	1,547.35m ²		室数	5室		1,547.35m ²
図書室	1,016.96m ²		室数	1室		1,016.96m ²

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

※集中治療室

ICU	7床	145.6 m ² (1床当たり 20.8 m ²)	、	3床	67 m ² (1床当たり 22.3 m ²)	、	
CCU	6床	107.8 m ² (1床当たり 17.9 m ²)	、	SCU	6床	127.4 m ² (1床当たり 21.23 m ²)	、
MFICU	6床	106.8 m ² (1床当たり 17.8 m ²)	、	NICU	12床	230.2 m ² (1床当たり 19.14 m ²)	

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	94.82%	逆紹介率	89.82%
-----	--------	------	--------

算 出 根 拠	A：紹介患者の数	16,072人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,520人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,423人
	D：初診の患者の数	19,505人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、明治大学法科大学院教授、山本柴崎法律事務所弁護士	○	日本を代表する民事訴訟法学者であり、医療事故調査委員会外部委員を務めるなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク协会会长		文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行い、医療機関の倫理委員等を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	有・ 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院医療安全管理部教授		心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。インфекションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
益子 まり	川崎市非常勤嘱託産業医		小児科医として実務経験後、地域の医療行政を推進、川崎市保健所長を務める。医療現場で医療安全に関する法律が適切に実施されているのを監督する立場にあり見識を有する。 当院の医療安全の実施に指導的	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

			役割を担ってこられた経験があり、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。		
中尾 智彦	法務・監査室 室長		法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	④・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	④・無
委員の選定理由の公表の有無	④・無
公表の方法 聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	66	下垂体性PRL分泌亢進症	28
2	筋萎縮性側索硬化症	25	67	クッシング病	19
3	脊髄性筋萎縮症	8	68	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	36
4	原発性側索硬化症	2	69	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
5	進行性核上性麻痺	23	70	下垂体前葉機能低下症	153
6	パーキンソン病	681	71	甲状腺ホルモン不応症	2
7	大脳皮質基底核変性症	12	72	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
8	ハンチントン病	3	73	先天性副腎低形成症	6
9	シャルコー・マリー・トゥース病	9	74	アジソン病	28
10	重症筋無力症	156	75	サルコイドーシス	187
11	先天性筋無力症候群	2	76	特発性間質性肺炎	276
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	173	77	肺動脈性肺高血圧症	158
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	81	78	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	37
14	封入体筋炎	5	79	網膜色素変性症	54
15	クロー・深瀬症候群	2	80	バッド・キアリ症候群	1
16	多系統萎縮症	34	81	特発性門脈圧亢進症	6
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	89	82	原発性胆汁性胆管炎	259
18	ライソゾーム病	9	83	原発性硬化性胆管炎	17
19	副腎白質ジストロフィー	3	84	自己免疫性肝炎	179
20	ミトコンドリア病	31	85	クローン病	153
21	もやもや病	48	86	潰瘍性大腸炎	561
22	プリオン病	2	87	好酸球性消化管疾患	37
23	HTLV-1関連脊髄症	119	88	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
24	全身性アミロイドーシス	3	89	CFC症候群	1
25	遠位型ミオパチー	1	90	コステロ症候群	1
26	神経線維腫症	26	91	チャージ症候群	3
27	天疱瘡	38	92	クリオピリン関連周期熱症候群	2
28	表皮水疱症	1	93	若年性特発性関節炎	46
29	膿疱性乾癬(汎発型)	16	94	非典型性溶血性尿毒症症候群	2
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	8	95	ブラウ症候群	1
31	中毒性表皮壊死症	1	96	先天性ミオパチー	2
32	高安動脈炎	51	97	筋ジストロフィー	33
33	巨細胞性動脈炎	52	98	遺伝性周期性四肢麻痺	13
34	結節性多発動脈炎	73	99	脊髄空洞症	25
35	顕微鏡的多発血管炎	117	100	脊髄髄膜瘤	29
36	多発血管炎性肉芽腫症	77	101	アイザックス症候群	3
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	64	102	遺伝性ジストニア	2
38	悪性関節リウマチ	91	103	前頭側頭葉変性症	10
39	バージャー病	15	104	ビッカーズスタッフ脳幹脳炎	1
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	20	105	痙攣重積型(二相性)急性脳症	4
41	全身性エリテマトーデス	909	106	先天性無痛無汗症	2
42	皮膚筋炎／多発性筋炎	299	107	アレキサンダー病	1
43	全身性強皮症	266	108	片側巨脳症	1
44	混合性結合組織病	152	109	限局性皮質異形成	1
45	シェーグレン症候群	839	110	神経細胞移動異常症	8
46	成人スチル病	58	111	先天性大脳白質形成不全症	1
47	再発性多発軟骨炎	79	112	ドラベ症候群	7
48	ベーチェット病	212	113	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	4
49	特発性拡張型心筋症	130	114	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	2
50	肥大型心筋症	189	115	レノックス・ガストー症候群	14
51	拘束型心筋症	1	116	ウエスト症候群	36
52	再生不良性貧血	60	117	大田原症候群	1
53	自己免疫性溶血性貧血	62	118	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8	119	ラスマツセン脳炎	1
55	特発性血小板減少性紫斑病	172	120	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
56	血栓性血小板減少性紫斑病	18	121	レット症候群	4
57	原発性免疫不全症候群	41	122	スタージ・ウェーバー症候群	9
58	IgA腎症	397	123	結節性硬化症	13
59	多発性嚢胞腎	148	124	先天性魚鱗癬	6
60	黄色靱帯骨化症	15	125	家族性良性慢性天疱瘡	3
61	後縦靱帯骨化症	60	126	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	88
62	広範脊柱管狭窄症	3	127	特発性後天性全身性無汗症	1
63	特発性大腿骨頭壊死症	79	128	眼皮膚白皮症	1
64	下垂体性ADH分泌異常症	111	129	マルファン症候群	9
65	下垂体性TSH分泌亢進症	3	130	エーラス・ダンロス症候群	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
131	ウィルソン病	5	194	IgG4関連疾患	140
132	低ホスファターゼ症	1	195	黄斑ジストロフィー	4
133	VATER症候群	1	196	レーベル遺伝性視神経症	1
134	ウィリアムズ症候群	3	197	遅発性内リンパ水腫	14
135	クルーゾン症候群	1	198	好酸球性副鼻腔炎	71
136	アペール症候群	1	199	進行性白質脳症	1
137	ロスムンド・トムソン症候群	1	200	先天異常症候群	3
138	歌舞伎症候群	2	201	先天性三尖弁狭窄症	1
139	多脾症候群	3	202	先天性僧帽弁狭窄症	2
140	無脾症候群	3	203	左肺動脈右肺動脈起始症	1
141	ブラダー・ウィリ症候群	9	204	遺伝性自己炎症疾患	2
142	ソトス症候群	5	205	大理石骨病	1
143	ヌーナン症候群	3	206	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
144	4p欠失症候群	1	207	前眼部形成異常	1
145	5p欠失症候群	3	208	無虹彩症	3
146	アンジェルマン症候群	5	209	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	20
147	22q11.2欠失症候群	6	210	特発性多中心性キャッスルマン病	3
148	修正大血管転位症	4	211	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1
149	完全大血管転位症	6	212		
150	単心室症	9	213		
151	左心低形成症候群	2	214		
152	三尖弁閉鎖症	10	215		
153	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	16	216		
154	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	217		
155	ファロー四徴症	42	218		
156	両大血管右室起始症	23	219		
157	エプスタイン病	5	220		
158	アルポート症候群	9	221		
159	急速進行性糸球体腎炎	148	222		
160	抗糸球体基底膜腎炎	6	223		
161	一次性ネフローゼ症候群	86	224		
162	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	225		
163	紫斑病性腎炎	23	226		
164	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	227		
165	オスラー病	23	228		
166	閉塞性細気管支炎	4	229		
167	肺胞低換気症候群	2	230		
168	副甲状腺機能低下症	28	231		
169	偽性副甲状腺機能低下症	10	232		
170	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	233		
171	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	234		
172	フェニルケトン尿症	1	235		
173	プロピオン酸血症	1	236		
174	尿素サイクル異常症	5	237		
175	ポルフィリン症	2	238		
176	筋型糖原病	3	239		
177	肝型糖原病	1	240		
178	家族性地中海熱	20	241		
179	強直性脊椎炎	40	242		
180	骨形成不全症	4	243		
181	軟骨無形成症	3	244		
182	リンパ管腫症/ゴーハム病	1	245		
183	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	7	246		
184	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	16	247		
185	後天性赤芽球癆	2	248		
186	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3	249		
187	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3	250		
188	クローンカイト・カナダ症候群	1	251		
189	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	2	252		
190	総排泄腔遺残	6	253		
191	先天性横隔膜ヘルニア	7	254		
192	胆道閉鎖症	16	255		
193	嚢胞性線維症	1	256		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙施設基準届出状況参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

施設基準届出状況

< 基本診療料 >

- オンライン診療料
- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神10対1）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算1（25対1）
- 急性期看護補助体制加算（25対1）
- 看護職員夜間配置加算1（12対1）
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科応急入院施設管理加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 抗菌薬適正使用支援加算
- 患者サポート体制充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算

< 特掲診療料 >

- 外来栄養食事指導料（注2）
- 遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）
- がん患者指導管理料 イ
- がん患者指導管理料 ロ
- がん患者指導管理料 ハ
- がん患者指導管理料 ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労両立支援指導料
- がん治療連携計画策定料 1
- がん治療連携計画策定料 2
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 精神科退院時共同指導料 1・2
- 在宅血液透析指導管理料
- 在宅腫瘍治療薬療法指導管理料
- 持続血糖測定器加算
- 遺伝学的検査
- 骨髄微小残存病変測定
- BRCA1/2遺伝子検査
- がんゲノムプロファイリング検査
- 先天性代謝異常症検査
- 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅰ）
- 検体検査管理加算（Ⅳ）
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 長期脳波ビデオ同時記録検査 1
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシールドウォーキングテスト
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップフィルタ試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 脳波検査判断料 1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- センチネルリンパ節生検（片側）
- 経気管支凍結生検法
- 血流予備量比コンピューター断層撮影
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 3
- CT撮影及びMRI 1撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 心臓MRI 1撮影加算
- 乳房MRI 1撮影加算
- 頭部MRI 1撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- がん患者リハビリテーション料
- 通院・在宅精神療法（児童思春期精神科専門管理加算）
- 通院・在宅精神療法（療養生活環境整備指導加算）
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- 静脈圧測定装置（慢性静脈不全に対するもの）
- 多血小板血漿処置
- 人工腎臓
- 皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）

- ハイリスク分娩管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 2
- データ提出加算 2及び4
- 入退院支援加算 1・3（地域連携診療計画加算/入院時支援加算/総合機能評価加算）
- 認知症ケア加算1
- 精神疾患診療体制加算
- 精神科急性期医師配置加算
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料 1
- 救命救急入院料 4
- 特定集中治療室管理料 3
- ハイケアユニット入院医療管理料 1
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）
- 総合周産期特定集中治療室管理料（新生児）
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1

- 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものを限る。）））
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 椎間板内酵素注入療法
- 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、背髄刺激装置植込術及び背髄刺激装置交換術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- 網膜再建術
- 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術 V型（拡大副鼻腔手術）
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- 乳癌悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 1 又は乳がんセンチネルリンパ節加算 2 を算定する場合に限る。）
- 乳癌悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
- 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔縫合閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膵腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- 経カテーテル大動脈弁置換術
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテルの手術によるもの）に限る。）
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
- 両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- 補助人工心臓
- 経皮的下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
- ハルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
- 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
- 胎児胸腔・羊水腔シャント術
- 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
- 輸血管理料 Ⅰ
- 自己クリオプレシビーター作製術（用手法）及び同種クリオプレシビーター作製術
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料（Ⅰ）
- 麻酔管理料（Ⅱ）
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1回総量増加加算
- 強度変調放射線治療（IMRT）
- 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 画像誘導密封小線源治療加算
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	ブレオマイシンと免疫チェックポイント阻害薬の併用による悪性黒色腫の治療	門野 岳史	皮膚科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
2	皮膚悪性リンパ腫の包括的な病態解明による新規治療法の提案	宮垣 朝光	皮膚科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
3	TAVI後急性腎障害の早期診断に有用な新規バイオマーカーの確立	小幡 由美	麻酔科	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
4	腎移植ドナーを対象とした運動療法の有効性について	今井 直彦	腎臓・高血圧内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
5	GLP-1受容体活性化による2型糖尿病のサルコペニア予防効果とメカニズムの解明	池森 敦子	腎臓・高血圧内科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
6	性犯罪のリスクのある障がい者の社会インテグレーション	安藤 久美子	神経精神科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
7	院内心停止等ビッグデータを用いた小児医療環境の医療安全指標にかかる多施設共同研究	清水 直樹	小児科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
8	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの接種部位別の局所反応の比較	勝田 友博	小児科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
9	大学病院における動物介在療法の有効性の評価	長江 千愛	小児科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
10	ウイルスゲノム組み込みと生体機能情報のリアルタイム血中可視化による革新的肝癌制御	伊東 文生	消化器・肝臓内科	3,200,000	補委	(独)日本学術振興会
11	ヒト門脈血液中に検出する細菌種解析による肝疾患形成の解明	渡邊 綱正	消化器・肝臓内科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
12	膵癌等を標的とする革新的消化器系新規腫瘍マーカー・ラミニンγ2とその機能解析	安田 宏	消化器・肝臓内科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
13	胃液、胆汁、血液を用いた新規癌診断法におけるラミニンγ2単鎖の有用性の解析	清川 博史	消化器・肝臓内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
14	臨床検体から同定したピロリ菌ゲノム異常の時空間的な解明に基づく胃癌の革新的制御	山本 博幸	消化器・肝臓内科	3,200,000	補委	(独)日本学術振興会
15	胎仔心筋細胞増殖機構Hipp-Yap経路に着目した心不全治療応用への基盤研究	松本 直樹	循環器内科	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
16	乳癌患者に対する3次元心エコー図を用いた薬剤性心筋症スクリーニング方法の確立	出雲 昌樹	循環器内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
17	大規模DPCデータを用いた疫学研究～大気汚染が与える心疾患発症と奪う医療費	米山 喜平	循環器内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
18	たこつぼ症候群患者に対する運動療法の再発予防効果	明石 嘉浩	循環器内科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
19	Utility of passive leg raising echocardiography for patients with heart failure with preserved ejection fraction	寺本 佳楠子	循環器内科	700,000	補委	(独)日本学術振興会

小計:18

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
20	慢性活動性EBウイルス感染症発症の背景因子としての腸、口腔、鼻腔の細菌叢	新井 文子	血液・腫瘍内科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
21	HAM患者に対する抗CCR4抗体療法の最適化に関する研究	佐藤 知雄	脳神経内科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
22	狭窄性頸動脈病変の診断におけるSMI超音波の有用性に関する観察研究	萩原 悠太	脳神経内科	600,000	補委	(独) 日本学術振興会
23	4D Flow MRIの潜因性脳梗塞の塞栓源検索における有用性	秋山 久尚	脳神経内科	1,700,000	補委	(独) 日本学術振興会
24	HAMのHTLV-1感染細胞の異常形質を規定するゲノム・エピゲノム制御機構の解析	山野 嘉久	脳神経内科	4,500,000	補委	(独) 日本学術振興会
25	新品種レジスタントスターチ高含有米の糖尿病患者に対する血糖改善効果の検討	中村 祐太	代謝・内分泌内科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
26	糖尿病治療における新規呼気アセトン測定の有用性:良好な体重・血糖維持のための活用	中川 朋子	代謝・内分泌内科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
27	顕微鏡的多発血管炎の新規バイオマーカー・治療標的候補血清ペプチドの網羅的解析	黒川 真奈絵	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
28	Layilinを中心とした関節リウマチの滑膜細胞増殖・活性化の機構解明	加藤 智啓	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
29	免疫チェックポイント阻害療法副作用マネージメントのための免疫モニタリング法の樹立	川畑 仁人	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
30	炎症と骨吸収に関与するIL-34は関節リウマチの治療の標的分子となりうるのか?	永渕 裕子	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	500,000	補委	(独) 日本学術振興会
31	自己免疫疾患における新規T細胞及びB細胞サブセットの動態及び機能解析	今村 充	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
32	自己免疫疾患特異的な末梢性ヘルパT細胞と疾患治療効果に伴う遺伝子発現の動的観察	櫻井 恵一	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,500,000	補委	(独) 日本学術振興会
33	機械的ストレスに応答する軟骨の核酸修復とエネルギー代謝の相関解析、治療法への応用	遊道 和雄	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
34	めまいリハビリテーションへの応用を目的とした前庭動眼反射の可塑性の検討	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	100,000	補委	(独) 日本学術振興会
35	鼻閉が及ぼす持続的運動と間欠的運動への影響と治療適応の解析	齋藤 善光	耳鼻咽喉科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
36	高周波超音波プローブと母体血清マーカーを用いた癒着胎盤の診断に関する研究	長谷川 潤一	産婦人科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
37	光干渉断層計を用いた最適組織選択による効果的卵巣組織移植法の開発	高江 正道	産婦人科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会

小計:19

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
38	がん患者のための妊孕性温存における卵細胞傷害の原因と改善方法の究明	鈴木 由妃	産婦人科	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
39	がんサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存療法の革新的な技術開発	鈴木 直	産婦人科	5,400,000	補委	(独)日本学術振興会
40	自己細胞を用いた再生気管の臨床応用に向けて	小島 宏司	呼吸器外科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
41	先天性尿路閉塞疾患に対する胎児期の経尿膜管治療の臨床応用への可能性の検討	田中 邦英	小児外科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
42	フリーラン自発筋電図による定量的モニタリングの開発	後藤 哲哉	脳神経外科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
43	乳がんにおける内分泌療法耐性獲得メカニズムの解析	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	4,900,000	補委	(独)日本学術振興会
44	微弱電流および高気圧酸素は損傷骨格筋の筋力回復を促進させるか	藤谷 博人	整形外科	500,000	補委	(独)日本学術振興会
45	外反母趾の病態と新たな治療法確立のための第1TMT関節の解剖学的研究	軽辺 朋子	整形外科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
46	miR195-5pを用いた膀胱癌に対する革新的膀胱内注入療法の開発	佐々木 秀郎	腎泌尿器外科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
47	視神経軸索障害におけるオートファジーを含む代謝処理機能不全の機構解明	北岡 康史	眼科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
48	p38-p62シグナル阻害を介した視神経軸索保護機構解明	佐瀬 佳奈	眼科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
49	新規血管細胞制御シグナル伝達に介入する網膜脈絡膜血管病治療法の開発	高木 均	眼科	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
50	他施設レジストリに基づく院内救急体制の質改善と早期警告スコアの開発	内藤 貴基	救命救急センター	600,000	補委	(独)日本学術振興会
51	一酸化炭素(CO)中毒に対する新しい治療法としての光照射	平 泰彦	救命救急センター	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
52	Track and Triggerによる自動的RRS起動システム開発・多施設検証	吉田 徹	救命救急センター	900,000	補委	(独)日本学術振興会
53	多剤耐性腸内細菌科細菌の耐性機序とバイオフィルムが耐性に及ぼす影響に関する研究	竹村 弘	感染制御部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
54	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における疾患特異的マーカーの検出とその人種別評価	唐澤 里江	メディカルサポートセンター地域連携室(難病相談)	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
55	予測不能な乳児突然死(SUID)原因検索プロトコルと制度整備に基づく診断精度向上と実態把握、ならびに睡眠環境因子を含めたSUID/SIDS予防策提言とCDR連携のための研究	清水 直樹	小児科	4,620,000	補委	厚生労働省

小計:18

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
56	てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	山本 仁	小児科	11,540,000	補委 厚生労働省
57	がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究-がん医療の充実を志向して	鈴木 直	産婦人科	9,200,000	補委 厚生労働省
58	小児・AYA 世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して	鈴木 直	産婦人科	13,800,000	補委 厚生労働省
59	保健・医療関連行為に関する国際分類の我が国への適用のための研究	川瀬 弘一	小児外科	2,500,000	補委 厚生労働省
60	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	山野 嘉久	脳神経内科	11,700,000	補委 厚生労働省
61	難治性てんかんにおけるカンナビノイド(大麻抽出成分)由来医薬品の治験に向けた課題把握および今後の方策に向けた研究	太組 一朗	脳神経外科	5,204,000	補委 厚生労働省
62	慢性活動性EBウイルス感染症を対象としたJAK1/2阻害剤ルキソリチニブの医師主導治験	新井 文子	血液・腫瘍内科	48,570,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
63	HAMの革新的治療となる抗CCR4抗体製剤のコンパッションエートユースによる長期投与試験	山野 嘉久	脳神経内科	58,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
64	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の診療ガイドラインに資する統合的レジストリの構築によるエビデンスの創出	山野 嘉久	脳神経内科	11,625,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
65	HAMの治療薬開発を促進する代替エンドポイントとしてのバイマオーカーの実用化研究	山野 嘉久	脳神経内科	18,410,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
66	新規HTLV-1感染モデルを用いたHAMの発症予防法・治療法の開発	山野 嘉久	脳神経内科	31,600,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
67	アダプティブデザインを用いた COVID-19 国際多施設ランダム化比較試験と重症呼吸器感染症に対する臨床研究体制の基盤構築	藤谷 茂樹	救命救急センター	6,500,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
68	慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	3,509,144	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
69	小児の気道狭窄病変に伴う呼吸不全に対するヘリウム・酸素混合ガス(AW-PD01)の臨床第Ⅱ相試験の研究総括に関する研究	清水 直樹	小児科	18,785,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
70	クリゾチニブの再発又は難治性小児ALK(anaplastic lymphoma kinase)陽性未分化大細胞型リンパ腫(anaplastic large cell lymphoma,ALCL)に対する第Ⅰ/Ⅱ相および再発又は難治性神経芽腫に対する第Ⅰ相医師主導治験	森 鉄也	小児科	41,948,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計:15

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
71	生殖能を有する者に対する医薬品の適正使用に関する情報提供のあり方の研究	鈴木 直	産婦人科	3,919,231	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計:1
合計:71

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nagafuchi H, Goto Y, Suzuki S 他	リウマチ膠原病ア レルギー内科	Rheumatoid arthritis relapse in patients with other iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders and its treatment	Modern RheumatologyP1-11 2021年3月 (オンライン)	Original Article
2	Kiyokawa T, Hanaoka H, Iida H 他	リウマチ膠原病ア レルギー内科	High plasma mycophenolate acid concentration in the early phase of induction therapy predicts good renal outcome in lupus nephritis	Modern Rheumatology30巻3号 P517-524 2020年5月	Original Article
3	Yamazaki K,Ohta A,Akioka S,Yamasaki Y 他	リウマチ膠原病ア レルギー内科	External validation of the EULAR/ACR idiopathic inflammatory myopathies classification criteria with japanese paediatric cohort.	Rheumatology 60巻2号 P802-808 2021年2月	Original Article
4	Yamasaki Yukitaka, Ooka Seido, Tsuchida Tomoya 他	感染症学	The peripheral lymphocyte count as a predictor of severe COVID-19 and the effect of treatment with ciclesonide.	Virus Research290巻 P198089 2020年12月 (オンライン)	Original Article
5	JuJo T, Kogo J, Sasaki H 他	眼科	27-gauge trocar-assisted sutureless intraocular lens fixation	BMC Ophtalmology21巻1号 P8 2021年1月 P8	Original Article
6	Fujita N, Sase K, Tsukahara C 他	眼科	Pemafibrate prevents retinal neuronal cell death in NMDA-induced excitotoxicity via inhibition of p-c-Jun expression	Molecular Biology Reports48巻1号P195-202 2021年1月	Original Article
7	Sase K, Tsukahara C, Fujita N 他	眼科	Akebia Saponin D prevents axonal loss against TNF-induced optic nerve damage with autophagy modulation	Molecular Biology Reports47巻12号P9733-9738 2020年12月	Original Article
8	Kitaoka Y, Sase K, Tsukahara C 他	眼科	Axonal Protection by Nicotinamide Riboside via SIRT1-Autophagy Pathway in TNF-Induced Optic Nerve Degeneration	Molecular Neurobiology57巻12号P4952-4960 2020年12月	Original Article
9	Arai A, Takase H, Yoshimori K 他	血液・腫瘍内科	Gene expression profiling of primary vitreoretinal lymphoma.	Cancer Science111巻4号 P1417-1421 2020年4月	Original Article
10	Arai A	血液・腫瘍内科	Chronic active epstein-barr virus infection : the elucidation of the pathophysiology and the development of therapeutic methods	Microorganisms9巻1号 P180 2021年1月	Review
11	Furuya Naoki, Ito Kentaro, Sakaguchi Tadashi 他	呼吸器内科	The Impact of EGFR Mutation Status and Brain Metastasis for Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Ramucirumab plus Docetaxel	Oncology98巻9号P661-668 2020年5月	Original Article

小計:11

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Furuya Naoki, Kojima Koji, Marushima Hideki 他	呼吸器内科	Successful treatment with nivolumab in a patient with lung adenocarcinoma complicated by pulmonary aspergilloma.	Thoracic Cancer11号 P3391-3395 2020年11月	Case report
13	Junichi Hasegawa, Shinji Katsuragi, Hiroaki Tanaka 他	産婦人科	How maternal death due to suicide should be classified?: Discrepancy between ICD-10 and ICD-MM.	BJOG : an international journal of obstetrics and gynaecology127巻6号 P665-667 2020年5月	Review
14	Akiko Kurasaki, Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya 他	産婦人科	Significantly enlarged varix in the free-loop of the umbilical cord during the second trimester	Case Reports in Perinatal Medicine9巻1号 2020年 10月 (オンライン)	Case report
15	Junichi Hasegawa, Yuriko Iwahata, Haruhiro Kondo 他	産婦人科	Development of placenta over entire uterine cavity following laparoscopic uterine-sparing adenomyomectomy	European journal of obstetrics, gynecology, and reproductive biology2020 Dec255号 P265-266 2020年12月	Review
16	Reiko Suzuki, Hiraku Endo, Takamichi Sasaki 他	産婦人科	Primary malignant melanoma of uterine cervix treated with pembrolizumab as adjuvant immunotherapy	International Cancer Conference Journal 2021 年3月 (オンライン)	Case report
17	Shiho Kuji, Haruhiro Kondo, Tatsuru Ohara 他	産婦人科	Value of adjuvant chemotherapy and informed microscopic examination for occult gynecologic cancer detected upon risk-reducing salpingo-oophorectomy after chemotherapy for BRCA 1/2-associated breast cancer: a case report	Japanese Journal of Clinical Oncology51巻3号 P492-497 2021年3月	Case report
18	Hideyuki Iwahata, Yuriko Iwahata, Chika Homma 他	産婦人科	Degenerative type of placental chorioangioma requiring fetal blood transfusion	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research47巻3号P1191- 1194 2021年3月	Case report
19	Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Haruka Imai 他	産婦人科	Accuracy of predicting neonatal distress using a five-level classification of fetal heart rate monitoring	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research47巻1号P254- 261 2021年1月	Original Article
20	Junichi Hasegawa, Akihiko Sekizawa, Tatsuya Arakaki 他	産婦人科	Declined use of cervical ripening balloon did not reduce the incidence of umbilical cord prolapse in Japan	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research46巻8号P1349- 1354 2020年8月	Original Article
21	Taro Inagaki, Tsunetaro Morino, Ryo Takagi 他	耳鼻咽喉科	Transplantation of Autologous Oral Mucosal Epithelial Cell Sheets Inhibits the Development of Acquired External Auditory Canal Atresia in a Rabbit Model	Acta biomaterialia110巻7 月号P141-152 2020年6 月	Original Article

小計:10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
22	Hiroko Minatogawa, Naoki Izawa, Takashi Kawaguchi 他	腫瘍内科	Study protocol for SPARED trial: randomised non-inferiority phase III trial comparing dexamethasone on day 1 with dexamethasone on days 1-4, combined with neurokinin-1 receptor antagonist, palonosetron and olanzapine (5 mg) in patients receiving cisplatin-based chemotherapy	BMJ Open10巻12号 2020年12月 (オンライン)	Others
23	Yu Sunakawa, Masato Nakamura, Masahiro Ishizaki 他	腫瘍内科	RAS Mutations in Circulating Tumor DNA and Clinical Outcomes of Rechallenge Treatment With Anti-EGFR Antibodies in Patients With Metastatic Colorectal Cancer	JCO presion oncology4巻 2020号P898-911 2020年7月	Original Article
24	Naoki Izawa, Kohei Shitara, Kimio Yonesaka 他	腫瘍内科	Early tumor shrinkage and depth of response in the second-line treatment for KRAS exon2 wild-type metastatic colorectal cancer: An exploratory analysis of the randomized phase 2 trial comparing panitumumab and bevacizumab in combination with FOLFIRI (WJOG6210G)	Targeted Oncology 15巻5号P623-633 2020年10月	Original Article
25	Doi Shunichi, Akashi Yoshihiro J, Takita Mumon 他	循環器内科	Preventing thrombosis in a COVID-19 patient by combinatorial therapy with nafamostat and heparin during extracorporeal membrane oxygenation	Acute Medicine & Surgery7巻1号 2020年10月 (オンライン)	Case report
26	Koga Masashi, Izumo Masaki, Tanabe Yasuhiro 他	循環器内科	Cerebral infarction due to dispersal of aortic atheromas detected by transoesophageal echocardiography during transcatheter aortic valve implantation	BNJ Case Reports13巻12号 2020年12月 (オンライン)	Case report
27	Okuyama Kazuaki, Watanabe Mika, Kamijima Ryo 他	循環器内科	Acute aortic regurgitation after post-dilatation: first case of crashed leaflet in transcatheter aortic valve implantation.	Cardiovascular Intervention and Therapeutics35巻4号 P413-414 2020年10月	Review
28	Teramoto Kanako, Tromp Jasper, Lam Carolyn SP	循環器内科	Heart failure or heart success?	Cardiovascular research117巻3号P29-34 2021年3月	Original Article
29	Nakajima Iktaro, Narui Ryosuke, Aboud Asad A 他	循環器内科	Periaortic ventricular tachycardias in nonischemic cardiomyopathy: substrate and electrocardiographic correlations.	Circulation Arrhythmia and Electrophysiology14巻2号 2021年2月 (オンライン)	Original Article
30	Izumo Masaki, Okuyama Kazuaki, Akashi Yoshihiro J	循環器内科	A novel 3-dimensional echocardiographic transillumination rendering with transparency in the evaluation of paravalvular leak after transcatheter aortic valve implantation.	Circulation Journal85巻3号P317 2021年2月	Review
31	Sasaki Kenichi, Izumo Masaki, Kuwata Shingo 他	循環器内科	Clinical impact of new-onset left bundle-branch block after transcatheter aortic valve implantation in the Japanese population - A single high-volume center experience.	Circulation Journal84巻6号P1012-1019 2020年5月	Original Article
32	Kaihara Toshiki, Izumo Masaki, Kameshima Haruka 他	循環器内科	Effect of immunosuppressive therapy on clinical outcomes for patients with aortic stenosis following transcatheter aortic valve implantation	Circulation Journal84巻12号P2296-2301 2020年11月	Original Article
33	Okuyama Kazuaki, Izumo Masaki, Ochiai Tomoki 他	循環器内科	New-generation transcatheter aortic valves in patients with small aortic annuli - comparison of balloon- and self-expandable valves in Asian patients.	Circulation Journal84巻11号P2015-2022 2020年10月	Original Article

小計:12

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
34	Kotoku Nozomi, Higuma Takumi, Ishibashi Yuki 他	循環器内科	ST-segment elevation myocardial infarction caused by very late in-stent restenosis nine years after deployment.	Coronary Artery Disease31巻8号P742-743 2020年12月	Original Article
35	Teramoto Kanako, Sengelov Morten, West Erin 他	循環器内科	Association of pulmonary hypertension and right ventricular function with exercise capacity in heart failure.	ESC Heart Failure7巻4号P1635-1644 2020年8月	Original Article
36	Murata Risako, Kuwata Shingo, Izumo Masaki 他	循環器内科	The efficiency of exercise stress echocardiography for evaluating symptomatic mitral regurgitation.	European Heart Journal Case Reports5巻2号 2021年2月 (オンライン)	Case report
37	Teramoto Kanako, Nadruz Junior Wilson, Matsushita Kunihiro 他	循環器内科	Mid- to late-life time-averaged cumulative blood pressure and late-life cardiac structure, function, and heart failure.	Hypertension76巻3号 P808-818 2020年9月	Original Article
38	Yoneyama Kihei, Naka Mayumi, Harada Tomoo 他	循環器内科	Creating 12-lead electrocardiogram waveforms using a three-lead bedside monitor to ensure appropriate monitoring	Journal of Arrhythmia36巻6号P1107-1108 2020年10月	Original Article
39	Mitarai Takanobu, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro J 他	循環器内科	A novel risk stratification system "Angiographic GRACE Score" for predicting in-hospital mortality of patients with acute myocardial infarction: Data from the K-ACTIVE Registry	Journal of Cardiology77巻2号P179-185 2021年2月	Original Article
40	Doi Shunichi, Tanabe Yasuhiro, Ishibashi Yuki 他	循環器内科	Diminishing of myocardial damage using impella CP for ST-elevation myocardial infarction involving the left main trunk	Journal of Coronary Artery Disease27巻1号 P33-36 2021年3月	Case report
41	Doi Shunichi, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko 他	循環器内科	McConnell's sign assessed by point-of-care cardiac ultrasound associated with in-hospital mortality of COVID-19 patients with respiratory failure.	Journal of Echocardiography19巻1号P67-69 2021年3月	Original Article
42	Tanabe Yasuhiro, Mitarai Takanobu, Ishibashi Yuki 他	循環器内科	Endothelialization of a venous stent at 1 month post implantation: first-in-human angioscopic assessment.	The Journal of Invasive Cardiology32巻9号P248 2020年9月	Case report
43	Kaihara Toshiki, Higuma Takumi, Kuwata Shingo 他	循環器内科	"Avulsion Injury" of the artery by a suture-mediated closure system during transcatheter aortic valve implantation.	The Journal of Invasive Cardiology32巻7号P193 2020年7月	Original Article
44	Okuyama Kazuaki, Izumo Masaki, Sasaki Kenichi 他	循環器内科	Comparison in clinical outcomes between leadless and onventional transvenous pacemaker following transcatheter aortic valve implantation.	The Journal of Invasive Cardiology32巻10号 P400-404 2020年10月	Original Article
45	Teramoto Kanako, Santos Mario, Claggett Brian 他	循環器内科	Pulmonary vascular dysfunction among people aged over 65 years in the community in the Atherosclerosis Risk In Communities (ARIC) Study: A cross-sectional analysis.	PLOS Medicine17巻10号 e1003361 2020年10月 (オンライン)	Original Article
46	Ohyama Kei, Furuta Shigeyuki, Shima Hideki 他	小児外科	Differences in post-operative complications after reconstruction for congenital biliary dilatation in a single institution-Roux-en-Y hepaticojejunostomy versus hepaticoduodenostomy-	Pediatric Surgery International37巻2号 P241-245 2021年2月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
47	Furuta Shigeyuki, Nagae Hideki, Ohyama Kei 他	小児外科	The vacuum treatment for the pectus excavatum thickened subcutaneous fat of the chest wall and is effective in preteenagers.	Pediatric Surgery International36巻12号 P1465-1469 2020年12月	Original Article
48	Usui Sota, Koizumi Satoshi, Ida Keisuke 他	消化器・一般外科	A Cross-Sectional Study of Adult Inguinal Hernial Orifice Diameter Estimation by Computed by Tomography	Journal of St. Marianna University11巻2号P91-102 2020年12月	Original Article
49	Hiwatari Masaki, Mikami Shinya, Otsubo Takehito 他	消化器・一般外科	A Study of the Changes in Laryngeal Elevation Distance and Dysphagia after Thoracic Esophageal Cancer Surgery	Journal of St. Marianna University11巻2号P81-89 2020年12月	Original Article
50	Amano Yuki, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito	消化器・一般外科	Nutrition Index is Maintained for Five Years after Pylorus-Preserving Pancreatoduodenectomy	Journal of St. Marianna University11巻2号P73-79 2020年12月	Original Article
51	Hiwatari Masaki, Mikami Shinya, Mafune Taichi 他	消化器・一般外科	A Case of Inflammatory Myofibroblastic Tumor Originating in the Lesser Omentum Treated by Laparoscopic Resection	Journal of St. Marianna University11巻2号P165-171 2020年12月	Case report
52	Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito, Nakano Hiroshi 他	消化器・一般外科	Complete Lymphadenectomy Around the Entire Superior Mesenteric Artery Improves Survival in Artery-First Approach Pancreatoduodenectomy for T3 Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	World Journal of Surgery45巻3号P857-864 2021年3月	Original Article
53	Ochiai Yasutoshi, Hara Masaki, Nakajima Takashi 他	消化器・肝臓内科	Intussusception due to Incarceration of Hard Stool With the Ileocecal Valve as the Leading Point: A Case Study	The American Journal of Gastroenterology116巻3号P451 2021年3月	Case report
54	Yamamoto Hiroyuki, Watanabe Yoshiyuki, Maehata Tadateru 他	消化器・肝臓内科	Microsatellite instability in cancer: a novel landscape for diagnostic and therapeutic approach	Archives of Toxicology94巻10号P3349-3357 2020年10月	Review
55	Yamamoto Hiroyuki, Watanabe Yoshiyuki, Sato Yoshinori 他	消化器・肝臓内科	Non-Invasive Early Molecular Detection of Gastric Cancers	Cancers12巻10号P2880 2020年10月	Original Article
56	Nakahara Kazunari, Morita Ryo, Itoh Fumio	消化器・肝臓内科	Endoscopic ultrasound-guided bilateral biliary drainage through the mesh of the metal stents using a balloon occlusion method	Digestive Endoscopy32巻5号P104-105 2020年7月	Original Article
57	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Endoscopic transpapillary gallbladder drainage using the balloon occlusion method to advance the guidewire into the cystic duct	Endoscopy52巻9号P339-341 2020年9月	Original Article
58	Nakahara Kazunari, Morita Ryo, Michikawa Yosuke 他	消化器・肝臓内科	Use of washing cytology from removed self-expandable metal stents for biliary strictures: a novel cytology method	Endoscopy International Open8巻6号P748-752 2020年6月	Original Article
59	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Itoh Fumio	消化器・肝臓内科	Hoarseness following endoscopic retrograde cholangiopancreatography	Gastroenterology160巻1号P15-16 2021年1月	Original Article
60	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage via the Mesh of Triple Uncovered Biliary Metal Stents Using a Soehendra Stent Retriever	Journal of gastrointestinal and liver diseases29巻2号P143 2020年6月	Original Article
61	Nakahara Kazunari, Morita Ryo, Michikawa Yosuke 他	消化器・肝臓内科	Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage for Acute Cholecystitis After Biliary Self-Expandable Metal Stent Placement	Surgical laparoscopy, endoscopy & percutaneous techniques30巻5号P416-423 2020年10月	Original Article

小計: 15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
62	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Endoscopic transpapillary gallbladder stent placement in the presence of uncovered biliary metal stents using a through-the-mesh technique	VideoGIE5巻7号P296-299 2020年5月	Original Article
63	Tomo Suzuki,Daisuke Ichikawa,Mayumi Nakata 他	腎臓・高血圧内科	Nephrotic syndrome due to preeclampsia before 20 weeks of gestation: a case report	BMC Nephrology21巻1号P240 2020年6月	Case report
64	Hasegawa M, Uehara A, Suzuki T 他	腎臓・高血圧内科	Nintedanib-induced glomerular microangiopathy: a case report.	CEN Case Reports9巻4号P295-300 2020年11月	Case report
65	Kita Y, Machida S, Shibagaki Y 他	腎臓・高血圧内科	Fact-finding survey on health literacy among Japanese predialysis chronic kidney disease patients: a multi-institutional cross-sectional study	Clinical and Experimental Nephrology25巻3号P224-230 2021年3月	Original Article
66	Han Takagi W, Osako K, Machida S 他	腎臓・高血圧内科	Inpatient educational program delays the need for dialysis in patients with chronic kidney disease stage G5	Clinical and Experimental Nephrology25巻2号P166-172 2021年2月	Original Article
67	Tsutomu Sakurada,Rie Fujishima,Shohei Yamada,Kaori Kohatsu 他	腎臓・高血圧内科	Seasonality of peritoneal dialysis-related peritonitis in Japan: a single-center, 10-year study	Clinical and Experimental Nephrology25巻1号P52-57 2021年1月	Case report
68	Sakurada T, Fujishima R, Yamada S 他	腎臓・高血圧内科	Seasonality of peritoneal dialysis-related peritonitis in Japan: a single-center, 10-year study.	Clinical and Experimental Nephrology25巻1号P52-57 2021年1月	Original Article
69	Tomohiko Inoue, China Nagano, Masafumi Matsuo 他	腎臓・高血圧内科	Functional analysis of suspected splicing variants in CLCN5 Gene in dent disease 1	Clinical and Experimental Nephrology24巻7号P606-612 2020年7月	Original Article
70	Masahiko Yazawa, Benedict Maliakkal, Satheesh Nair 他	腎臓・高血圧内科	Longitudinal Renal Function in Liver Transplant Recipients with Acute on Chronic Liver Failure.	Clinical and Translational Gastroenterology11巻6号P185 2020年6月 (オンライン)	Case report
71	Kaori Kohatsu,Sayaka Shimizu,Yugo Shibagaki 他	腎臓・高血圧内科	Association between Daily Urinary Sodium Excretion, Ratio of Extracellular Water-to-Total Body Water Ratio, and Kidney Outcome in Patients with Chronic Kidney Disease	Nutrients13巻2号P650 2021年2月	Original Article
72	Yazawa M, Tibor Fülöp, Orsolya Cseprekal 他	腎臓・高血圧内科	The incidence of cytomegalovirus infection after deceased-donor kidney transplantation from hepatitis-C antibody positive donors to hepatitis-C antibody negative recipients	Renal Failure 42巻1号P1083-1092 2020年11月	Original Article
73	Fujita Y, Ichikawa D, Sugaya T 他	腎臓・高血圧内科	Angiotensin II type 1a receptor loss ameliorates chronic tubulointerstitial damage after renal ischemia reperfusion.	Scientific reports11巻1号P982 2021年1月	Original Article
74	Yazawa M, Vasanthi Balaraman, Makoto Tsujita 他	腎臓・高血圧内科	Donor hepatitis C antibody positivity misclassifies kidney donor profile index in non hepatitis C infected donors: time to revise the kidney donor profile index	Transplant International33巻12号P1732-1744 2020年12月	Original Article
75	Shu Ushimaru, Mitsumi Arito, Atsuhiko Tsutiya 他	腎臓・高血圧内科	Roles of Layilin in Regulation of Low-Density Lipoprotein Receptor in Malignant Glioma Cells.	Journal of St. Marianna University 11巻2号 P53-59 2020年12月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Iinuma M, Akazawa T, Torii Y 他	整形外科	Increase in pancreatic enzymes following spinal alignment changes in the thoracolumbar junction: Potential for acute pancreatitis after kyphosis correction	Journal of Orthopaedic Science 25巻20号P30148 2020年6月 (オンライン)	Original Article
77	Akazawa T, Torii Y, Ueno J 他	整形外科科学	Mobile application for scoliosis screening using a standard 2D digital camera	Cureus13巻3号 2021年3月 (オンライン)	Others
78	Akazawa T, Kuroya S, Kotani T 他	整形外科科学	Anchor type at upper instrumented vertebra and postoperative shoulder imbalance in patients with Lenke type 1 adolescent idiopathic scoliosis	European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology31巻2号 P245-251 2021年2月	Original Article
79	Akazawa T, Kotani T, Sakuma T 他	整形外科科学	Pulmonary function improves in patients with adolescent idiopathic scoliosis who undergo posterior spinal fusion regardless of thoracoplasty: a mid-term follow-up	Spine Surgery and Related Research5巻1号 P22-27 2021年1月	Original Article
80	Tomoya Tsuchida, Yukitaka Yamasaki, Hiroyuki Kunishima 他	総合診療内科	Treatment of two cases of COVID-19 with ciclesonide resulted in amelioration of pneumonia symptoms.	THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS73巻2号 P35-44 2020年6月	Case report
81	Yamamoto Yutaro, Nagai Yoshio, Kawanabe Shin 他	代謝・内分泌内科	Effects of resistance training using elastic bands on muscle strength with or without a leucine supplement for 48 weeks in elderly patients with type 2 diabetes	Endocrine Journal68巻3号P291-298 2021年3月	Original Article
82	Ito Hidemichi, Uchida Masashi, Takasuna Hiroshi 他	脳神経外科	Analysis of postprocedural microembolic infarctions and global oxygen extraction fraction during balloon-protected carotid artery stenting: preliminary study	Surgical Neurology International12巻87号 P1-8 2021年3月	Original Article
83	Ito Hidemichi, Uchida Masashi, Kaji Tomohiro 他	脳神経外科	Risk factors of cerebellar microembolic infarctions after carotid artery stenting	World Neurosurgery 142号 P290-296 2020年10月	Original Article
84	Yoshie T, Yu Y, Jiang H 他	脳神経内科	Perfusion Parameter Thresholds that Discriminate Ischemic Core Vary with Time from Onset in Acute Ischemic Stroke	American Journal of Neuroradiology41巻10号 P1809-1815 2020年10月	Original Article
85	Sakurai K, Shinohara K, Imai T 他	脳神経内科	A Case of Severe Multiple Sclerosis Manifesting upon GnRH Agonist Therapy for Uterine Fibroids: A Case Report	Internal Medicine59巻23号P3093-3096 2020年12月	Case report
86	Takao N, Hagiwara Y, Shimizu T, Soga K 他	脳神経内科	Preprocedural Carotid Plaque Echolucency as a Predictor of In-stent Intimal Restenosis after Carotid Artery Stenting	J Stroke Cerebrovasc Dis29巻12号 P105339 2020年12月	Original Article
87	Soga K, Shimizu T, Hagiwara Y 他	脳神経内科	Soleal vein dilatation in the early-phase of hospitalization is associated with a subsequent development of deep vein thrombosis in patients with acute stroke	Journal of Medical Ultrasonics 48巻1号 P97-104 2021年1月	Original Article
88	Tsuchihashi Y, Shimizu T, Akiyama H 他	脳神経内科	The Risk Factors for Death within 6 months after Ischemic Stroke in Patients with Cancer	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases29巻12号 P105365 2020年12月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
89	Yamauchi J, Araya N, Yagishita N 他	脳神経内科	An update on human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1)-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP) focusing on clinical and laboratory biomarkers	Pharmacology & Therapeutics218号 P107669 2021年2月	Original Article
90	Kimura Yusuke, Yamashiro Tsuneo, Saito Yuki 他	放射線科	MRI findings of spring ligament injury: association with surgical findings and flatfoot deformity.	Acta Radiologica Open9 巻12号 2020年12月(オンライン)	Original Article
91	Yukihisa Ogawa, A. Claire Watkins, Anson Lee 他	放射線科	Acute type A dissection causing impending rupture of abdominal aortic aneurysm previously treated with EVAR	Annals of Vascular Surgery65巻 2020年5月(オンライン)	Case report
92	Tomita Hayato, Yamashiro Tsuneo, Heianna Joichi 他	放射線科	Deep Learning for the Preoperative Diagnosis of Metastatic Cervical Lymph Nodes on Contrast-Enhanced Computed Tomography in Patients with Oral Squamous Cell Carcinoma.	Cancers (Basel)13巻4号 P600 2021年2月 2020年2月	Original Article
93	Hayato Tomita, Klaus Detmar, Panagiota Manava 他	放射線科	Predictive Value of VIBE using Subtraction to Evaluate Idiopathic Facial Palsy after Starting Therapy	Fortschritte auf dem Gebiet der Röntgenstrahlen und der bildgebenden Verfahren 192巻12号 P1183-1189 2020年12月	Original Article
94	Yukinori Okada, Mariko Kobayashi, Mio Shinozaki Tatsuyuki Abe 他	放射線科	Prognostic factors of primary brain metastasis from SCLC treated by whole-brain radiotherapy	Journal of Radiotherapy in Practice P1-5 2020年10月(オンライン)	Original Article
95	Mimura Hidefumi, Akita S, Fujino A 他	放射線科	Japanese Clinical Practice Guidelines for Vascular Anomalies 2017.	The Journal of Dermatology47巻5号 P138-183 2020年5月	Original Article
96	Tomita Hayato, Yamashiro Tsuneo, Iida Gyo 他	放射線科	Unenhanced CT texture analysis with machine learning for differentiating between nasopharyngeal cancer and nasopharyngeal malignant lymphoma	Nagoya Journal of Medical Science83巻1号 P135-149 2021年2月	Original Article
97	Yukinori Okada, Tatsuyuki Abe, Mio Shinozaki 他	放射線科	Evaluation of imaging findings and prognostic factors after whole-brain radiotherapy for carcinomatous meningitis from breast cancer: A retrospective analysis	medicine99巻31号P21333 2020年7月	Original Article
98	Mimura H, Akita S, Fujino A 他	放射線科	Japanese clinical practice guidelines for vascular anomalies 2017.	Japanese journal of Radiology38巻4号P287-342 2020年4月	Original Article

小計10
合計:98

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of print or in pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	北島明美	耳鼻咽喉科	-末梢性めまいと鑑別困難であった中枢 症例から学ぶこと-	Equilibrium Research 79巻3号 P198-201 2020 年6月	Original Article
2	樋渡正樹, 小泉哲, 小倉佑太 他	消化器・一般外科	SVR後10年で発見された肝細胞癌の1切除	Liver Cancer 26巻1号 P7-11 2021年1月	Case report
3	佐々木貴浩, 古畑智久, 臼井創大 他	消化器・一般外科	Metabolic surgery の立ち上げと現状	川崎市医師会医学会誌 37巻 P1-4 2020年12月	Original Article
4	佐藤 渉, 國崎 主税, 高橋 正純 他	消化器・一般外科	神奈川県下の高齢者胃癌症例に対する腹 腔鏡下胃切除の現状	日本内視鏡外科学会雑誌 25巻 P254-262 2020年7 月	Original Article
5	海鋒有希子, 八木麻衣子, 石川大介 他	代謝・内分泌内科	2型糖尿病患者の筋力および筋肉の質に おける患者背景および身体機能について の検討	糖尿病 63巻4号 P172- 178 2020年4月	Original Article
6	宮澤知行, 酒井寛貴, 木村祐之 他	呼吸器外科	当科における胸腺上皮性腫瘍の治療経験	聖マリアンナ医科大学雑 誌 48巻3号 P43-47 2020年8月	Original Article
7	小林久志, 吉村博, 喜瀬智郎 他	小児科	小児重症ループス腎炎の腎機能長期予後 とその関連因子 -10 年間にわたる後ろ 向きコホート研究-	聖マリアンナ医科大学雑 誌 48巻3号 P67-82 2020年11月	Original Article
8	曾我海馬, 清水高弘, 飯島直樹 他	脳神経内科	頸動脈狭窄患者において血清MMP-9濃度 は頭蓋内主幹動脈狭窄リスクと関連する	聖マリアンナ医科大学雑 誌 48巻3号 P101-108 2020年12月	Original Article
9	今井直彦	腎臓・高血圧内科	尿酸管理	腎と透析 88巻6号 P795-800 2020年6月	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

小計:9
合計:9

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 1. 目的および適用範囲、2. 定義、3. 倫理審査委員会、3. 1. 倫理審査委員会の審査研究、3. 2. 倫理審査委員会の構成員、3. 3. 倫理審査委員会の成立要件、4. 審査の種類、4. 1. 通常審査、4. 2. 迅速審査、5. 審査手順、5. 1. 審査申請、5. 2. 審査準備、5. 3. 審査、5. 4. 審査結果、5. 4. 1. 審査結果の種類、5. 4. 2. 審査結果決議、5. 4. 3. 審査結果通知、6. 現状報告、7. 研究計画の変更、8. 研究中止または終了、9. 秘密情報、10. 教育・研修、11. 事務担当者の責務、11. 1. 事務担当者の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義や管理委員会の管理基準、審査方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

<p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況</p>	<p>【コース A～D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース A ・コース B ・コース C ・コース D <p>※上記全てのコースは、学内 web システムにて配信している。</p>
<p>・研修の主な内容</p> <p>【コースA】</p> <p>・ どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究（比較試験）、どのような研究が該当するか？、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究に関する規制、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則の提唱、「医療倫理の4原則」と「ベルモント・レポート」、四原則の意義、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容(平易な言葉)、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、臨床研究における大切な区別(その1、2)、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1～2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合、未承認の手技・高難度の手技を導入する場合、個人情報保護法と匿名化について、個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、動作も個人識別符号？、医学研究に大切な用語の説明1、「匿名加工情報」、「研究」は特別扱いされている！、用語の説明2、有害事象について(治験の場合を含む)、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬（治験薬）との因果関係判定基準、試験薬（治験薬）との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実際（治験の例）、資料保管、臨床研究法施行について【特定臨床研究】、「特定臨床研究」の範囲について、重篤な疾病等の報告の義務付け、臨床研究法施行に際して重要なこと、法律に基づく資金提供の公表範囲、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験）</p> <p>【コースB】</p> <p>・ どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究（比較試験）、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、実際に臨床研究計画を立てよう、プロトコール(計画書)作ることの意味、臨床研究の種類、どんな臨床研究が素晴らしいか？、-研究デザインと根拠の強さ -科学的根拠の質の分類- 研究デザインの分類-、臨床試験の王様、エステ通いのケースレポート、エステ通いのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか？、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化(マスク)・二重盲検化とは？、プラセボの必要性、エラーとバイアス、バイアスを減らす努力(1)～(3)、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、具体的なお話、1. 目的がよくわからない、2. 目的が2つ（以上）、研究計画はなるべく単純に！、3. 比較試験の基準が不明確、4. サンプルサイズが適切でない、探索型研究を上手に利用する、研究デザインの分類、観察研究のコツ、前向き観察研究の利点とコツ、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験）</p> <p>【コースC】</p> <p>・ 臨床研究と言ってもいろいろあって…用語だけでも混同しやすく…、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研</p>	

究等の分類の整理、つまり…臨床研究の手続きにおいては…、〔申請書類入手の実際の手順〕、患者同意説明文(各自で作成)、迅速審査(書面審査)、通常診療よって得られた診療情報を用いる観察研究、他の研究機関への既存試料・情報の提供に関する届出書、有害事象報告で頻発する失敗、とにかく、申請関連の作業の時に、その他(お問合せ先)

【コースD】

・資料「臨床試験登録を教材とした臨床研究学習用プロトコール」に基づき「臨床試験登録WS用フォーム」を使用したワークショップの開催(回答及び解説含む)。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学には、後期研修プログラムとして「任期付助教」と「大学院」の2つのコースが設けられている。

「任期付助教」は、3～5年間で専門分野の研修を行うが、特に内科学9分野・外科学5分野については、細分化された研修に入る前の前半2～3年間で各分野をラウンドする内容となっており、広汎な疾患を経験した後で各専門領域の研修を行うことができる。

任期付助教終了後は専門医の申請が可能であり、またこの期間は本学の規定により研究歴として加算されるため、学位申請も可能となっている。

一方、「大学院」は指導教授の指導のもと4年間学術研究を行い、その研究成果を取りまとめ提出、学内の最終審査に合格すれば博士(医学)の学位が取得できる。

なお、大学院学生の身分を有しつつ「診療助手」として病棟・外来の診療業務につくことが出来る制度があり、大半の大学院学生は研究に専念する期間以外にも自分の目指す臨床分野の後期研修を行っており、このコースでは、学位取得と同時に専門医の取得も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	272人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安田 宏	内科	副 部 長	37年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部 長	35年	
明石 嘉浩	循環器内科	部 長	25年	
伊東 文生	消化器・肝臓内科	部 長	38年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部 長	28年	
曾根 正勝	代謝・内分泌内科	部 長	25年	
山野 嘉久	脳神経内科	部 長	28年	
新井 文子	血液内科	部 長	33年	
川畑 仁人	リウマチ科	部 長	29年	
砂川 優	腫瘍内科	部 長	18年	
古茶 大樹	神経精神科	医 長	31年	
清水 直樹	小児科	部 長	31年	
大坪 毅人	消化器外科	部 長	35年	
宮入 剛	心臓血管外科	部 長	38年	
佐治 久	呼吸器外科	部 長	26年	
古田 繁行	小児外科	部 長	25年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部 長	34年	
田中 雄一郎	脳神経外科	部 長	38年	
仁木 久照	整形外科	部 長	30年	
梶川 明義	形成外科	部 長	37年	
門野 岳史	皮膚科	部 長	29年	
菊地 栄次	泌尿器科	部 長	27年	
鈴木 直	産婦人科	部 長	30年	
高木 均	眼科	部 長	34年	

肥塚 泉	耳鼻咽喉科	部 長	40年	
三村 秀文	放射線科	部 長	34年	
井上 莊一郎	麻酔科	部 長	28年	
小池 淳樹	病理診断科	部 長	30年	
藤谷 茂樹	救急科	部 長	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・ 研修の主な内容	
・ 研修の期間・実施回数	
・ 研修の参加人数	
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・ 研修の主な内容	
・ 研修の期間・実施回数	
・ 研修の参加人数	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・ 研修の主な内容	
・ 研修の期間・実施回数	該当無し
・ 研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 大坪 毅人	
管理担当者氏名	事務部長 根津 保廣	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務部管理課
		各科診療日誌	事務部管理課
		処方せん	薬剤部、IT戦略推進室、診療記録管理室
		手術記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		看護記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		検査所見記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		エックス線写真	IT戦略推進室、診療記録管理室
		紹介状	IT戦略推進室、診療記録管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課
		高度の医療の提供の実績	事務部管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部管理課
		高度の医療の研修の実績	事務部管理課
		閲覧実績	事務部管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部管理課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	事務部管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	人事部人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 クリニカルエンジニアニ部
		管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法務・監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	(1) 診療記録管理室長 門野岳史 (2) 事務部長 根津保廣
閲覧担当者氏名	(1) 診療記録管理課長 諸戸真由美 (2) 管理課長 草薨拓也
閲覧の求めに応じる場所	(1) 診療記録管理室 (2) 事務部管理課
閲覧の手続の概要 (1) 診療記録関係は、診療記録管理室 診療記録の閲覧は「大学病院における診療記録に関する運用管理規程」に基づき行っている。 「閲覧利用申込書」による申請時は、利用者所属長の許可を必要とし、閲覧室外への持出は厳禁としている。 診療記録の開示は「大学附属病院における診療情報に関する開示規程」に基づき行っている。 「診療記録等開示申請書」による申請時に請求者確認を身分証等で行い、主治医、診療部長、病院長等に許可申請を行い、決裁後に提供を行っている。 (2) (1) 以外は、事務部管理課	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 用語の定義 3. 委員会、体制 4. マニュアルの整備 5. 職員研修 6. 報告制度 7. インシデント・アクシデント・合併症の診療記録記載 8. 医療事故等発生時の対応 9. 医療事故調査制度支援センターへの報告 10. 患者からの相談への対応 11. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有 12. 指針の改訂 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：定例12回、臨時3回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に係る基本方針に関する事。 2. 安全管理のための委員会、その他の組織に関する事。 3. 安全管理のための職員研修に関する事。 4. 事故報告制度等の安全確保を目的とした改善のための方策に関する事。 5. 事故等発生時の対応に係る基本方針に関する事。 6. 安全管理のための委員会で立案された改善策の実施状況の調査及び改善策の見直しに関する事。 7. 重要な検討内容について、患者への対応状況を含めた管理者への報告に関する事。 8. 重大な問題の発生原因を分析し、改善策の立案及び実施、並びに教職員への周知に関する事。 9. リスクマネージャー会議、医療安全管理室等からの報告事項に関する事。 10. 重大な院内感染の発生状況に報告その他院内感染対策の推進に関する事。 11. 医薬品の安全管理に関する事。 12. 医療機器に係る安全管理に関する事。 13. 放射線の安全管理に関する事。 13. 病院長からの諮問事項に関する事。 14. 医療安全管理指針等の整備に関する事。 15. 院内死亡事例に関する事。 16. その他、医療安全の推進に関する事。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 17回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回 医療安全職員研修会（医療放射線研修） 2. 第2回 医療安全職員研修会（医療安全 シンポジウム） 3. 新入職者オリエンテーション 医療安全研修（研修医・看護師・薬剤師除く） 4. 新入職者オリエンテーション 医療安全研修（薬剤師・看護師） 5. 新規採用者・復職者・異動者医療安全研修 6. 看護師経年別研修（2年目（3回）・3年目（3回）・4年目（2回）・5年目 	

(1回)

7. 補助者医療安全研修
8. 研修医医療安全講習系 (全5回)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

1. 事例の収集は医療安全レポート報告システムを活用し、収集している。

2020年度年間報告件数

1) インシデント : 7761件 アクシデント : 72件 合併症 : 122件

その他 : 110件

2) 手術バリエーション報告件数 : 569件

3) 必要時、疑義照会や関連部署へのレポート入力依頼

2. 事例分析は、報告事例検討委員会を開催し、アクシデント3b以上・合併症、必要時にインシデント事例等検討している。

M&Mカンファレンス、事例検討会開催は、必要時に依頼し、医療安全管理室のスタッフが参加している。

1) 報告事例検討委員会

開催日時 : 毎週月曜日 9時~10時30分

参加者 : 医療安全管理責任者・医療安全管理室長・医療安全管理者
(医師・薬剤師・看護師) 患者相談窓口看護師・事務・兼務者 (医師2名・診療情報管理師)

2) 報告事例検討委員会の審議結果を医療安全統括会議で報告・審議し決定。その結果をセーフティマネジメント委員会で報告している。

3. 必要時、当該科を含め多職種参加のワーキンググループを立ち上げ、再発防止を検討している。その結果は、統括会議、セーフティマネジメント委員会で周知している。

【2020年度 活動実績】

1. 院内マニュアルに関する「院内のマニュアル洗い出しと整備」
2. 転倒・転落防止に関する「転倒転落マニュアルの見直しや講習会」
3. 持参薬に関する「持参薬日数や運用に関する取り決め作成」

4. 胃管誤挿入に関する「胃管挿入時や日常での管理手順作成」
5. 血糖測定に関する「高カロリー投与の血糖測定の取り決め」
6. 生体モニターに関する「生体情報モニター運用基準の改訂」
7. DNAR表示マーク運用に関する「DNAR表示方法について」
8. ISO規格導入に関する「経腸栄養領域の導入について」
9. 梅毒陽性対応に関する「梅毒陽性者の報告体制について」
10. 麻薬組成に関する「麻薬組成の院内統一について」

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は次の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂（最終改訂 2017年7月18日）</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
<p>・ 活動の主な内容：毎月感染委員会が開催されている。委員長は感染制御部部長で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理診断科、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。議題の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事、2. 院内感染・アウトブレイクの発生の要因及び対応に関する事、3. 滅菌及び消毒に関する事、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事、5. 原因微生物別感染防止対策に関する事、6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事、8. 感染症報告書に関する事、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関する事、10. 院内感染防止のための検査に関する事、11. 環境微生物検査に関する事、12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事、14. 病院長からの諮問事項に関する事、15. その他、感染防止に関する事。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9回
<p>・ 研修の内容（すべて）：全職員対象の研修会を年2回開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習などを合計すると年間9回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 3. 感染防止の推進に関する事項 <p>※2020年度研修会（全職員対象）内容：「本学4附属病院のCOVID-19診療に関する評価と反省、次回の“波”への対処」（第1回感染対策研修会）、「ウィズコロナ時代の感染対策」「COVID-19 ワクチン」（第2回感染対策研修会）</p> <p>【対象者別で行った講演会】「感染対策の実践」、「標準予防策について」、「針刺し・血液曝露 受傷時の対応を中心に」、「ラウンド結果／手指衛生関連データ報告」等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 2. 毎月部署毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 3. 抗菌薬使用状況を集計して報告している。 4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施 4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況		有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2021 年度 医薬品安全使用のための研修会実績 薬剤部</p>		
研修日	研修内容	参加者
4月7日	6西、6北 新人オリエンテーション	薬剤師1名 看護師20名
4月27日	精神科の薬の話	薬剤師1名 看護師4名
5月11日	新人看護師向け勉強会 レジメンについて	薬剤師1名 看護師6名
5月20日～	医薬品適応外・禁忌使用の取り扱いについて	ビデオ配信
7月1日～	医療安全における医薬品取り扱いの注意点	ビデオ配信
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 医薬品安全管理に関する定期巡回を年3回実施 その回ごとに重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する。 手順書に基づく業務の実施状況の確認</p>		
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p>		
	医薬品・医療機器名	診断名
未承認	8倍PA・ヨード点眼液 [0.025% 5mL]	角膜潰瘍、ヘルペスウイルス角膜炎、アcantメーバ
	プリビナ液 0.05% [100mL]	経鼻内視鏡の前処置
	内服用ルゴール液 [1% 100mL]	新生児バセドウ病による甲状腺クライシス
適応外	ベサノイドカプセル イダマイシン静注用	急性前骨髄球性白血病 腎機能障害患者に禁忌使用

mFOLFOX6	切除不能進行胆管癌
アビガン錠	COVID-19 感染症
オプジーボ	切除不能肝内胆管癌(ゲノム医療)
アドシルカ錠 NO 吸入	先天性心疾患術後
アバスチン点滴静注 リムパーザ錠	プラチナ抵抗性再発卵巣癌
インジゴカルミン注 20mg	半月版嚢腫
セララ錠	中心性漿液性網膜症
アクテムラ点滴静注	COVID-19 感染症
トリアゾラムなどベンゾジア ゼピン系睡眠薬・抗不安薬	重症筋無力症
エンハーツ点滴静注用	HER2 (ERBB2) 変異陽性肺腺癌
CHOP 療法	組織球肉腫
造影剤	重症大動脈弁狭窄症 アナフィラキシー既往患者に使用予定 (事前申請)
リンデロン坐剤 1 mg	直腸癌 ESD 後の狭窄予防
イムラン錠	抗 NMDA 受容体脳炎
アクテムラ点滴静注	多発血管炎性肉芽腫症 (GPA)
造影剤	重症大動脈弁狭窄症 アナフィラキシー既往患者に使用予定 (事前申請)

・ **その他の改善のための方策の主な内容：**

薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、DSU、海外文献、学会誌、DRUGDEX、大学図書館、製薬会社より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。緊急安全性情報等の特に重大な情報に関しては、閲覧リストを提出することで周知の確認を実施している。また院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知している。
-IT戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>令和2年11月17日～令和3年1月17日 大学病院全スタッフ対象に実施。 2020年度特定機能病院に必要な研修（AED）2850名対象 2850名受講完了。</p> 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>特定8機種において毎年保守点検実施計画を策定し、医療機器安全管理委員会の承認を受ける。定期点検は保守点検実施計画に沿って実施され月次の医療機器安全管理委員会にて実施状況を報告している。2020年度2446件実施。</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <p>使用事例無し</p> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>PMDAナビに登録し情報収集している。HIS端末より確認できるようにしている。定期的に更新を行い情報提供している。緊急情報ある場合はメーリングシステムにて配信を行い周知する。医療機器安全情報に関して、病院スタッフ誰もが容易に閲覧できるようHIS端末を積極的に利用していく。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	②・無
<p>・責任者の資格 (②医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>【統括方法】 担当副院長が、医療安全統括会議で議長となり 医療安全推進部門・高難度新規医療技術部門・未承認新規医薬品 医療機器評価担当部門・放射線安全管理部門を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② (13名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>IT 戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。</p> <p>【各種情報の整理】 緊急安全性情報、安全性情報、添付文書改訂のお知らせ等が発出された場合、以下のように分類する。</p> <p>①緊急安全性情報 ②安全性情報 ③それ以外で特に職員への周知が必要と考えらえる情報 ④その他</p> <p>①～③については書面にて対象薬剤を使用する部署の職員に周知を行う。①～③のうち特に重要な情報については、カンファレンス、看護師対象勉強会を通して薬剤師が周知する。特に重要と判断した情報は定期的にリマインドする。</p> <p>①～③の情報について書面にて情報の周知を行った際、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、MUEを実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】 ①～③の情報を指名された薬剤師が把握した場合は、医薬品安全管理責任者名で院内に発出する。また、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、医薬品安全管理責任者の指示でMUEを実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意</p>	

喚起を行う。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

【処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握】

薬剤師が、調剤、外来指導、病棟業務等において未承認等医薬品の使用を把握した際には、適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、薬剤管理指導記録に記録し、情報管理部門より上記記録の抽出データを得て、医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が使用状況を把握・確認する。又は医師からの申請により把握する。

【リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて、重篤度、有用度を評価することで、処方の妥当性について確認する。必要に応じて、処方した医師等に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無を確認する。

【処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、重篤度、有用度が低い分類であった場合、薬剤部の小委員会で評価を行い、使用の可否について診療科の長に評価の結果を基に意見を伝え、必要な場合は処方提案、生命倫理委員会への申請など指導を行う。

・担当者の指名の有無 (有)・無)

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属： ， 職種)
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有)・無

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：遵守状況の確認

①インフォームドコンセントに用いる説明・同意文書に関する確認

診療記録管理委員会の下部組織である説明・同意検討部会で、説明・同意文書の書式を一括管理している。新規作成文書については、説明・同意検討部会の審査で承認を得たものを使用可としている。院内共通書式でない既存の文書については、書式の統一化に努めている。

② インフォームドコンセントに関する記載内容等の確認

医療安全管理室の報告事例検討委員会等で、患者に実施された医療行為について、事前に適切な説明を行っているか、当該患者の同意を得られているかを確認している。また、診療記録管理委員会では、診療記録・電子カルテへの記載内容の点検に関する協議を行い、下部組織である診療記録評価部会で、記載内容の監査を実施している。

診療記録管理室では、診療情報管理士が適宜行う診療記録監査の項目に、説明同意に関することを含め記載内容を確認している。

: 指導の内容

- ① 報告事例検討委員会における審議症例について、説明内容や同意取得記載が不十分であると判断された場合は、医療安全管理室から記載者に指導を行っている。
- ② 診療記録評価部会や診療記録管理室内で監査実施後は、記載内容の評価結果を取りまとめ、医療安全統括会議や診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。
- ③ 電子カルテ上で、患者ごとのインフォームドコンセントに関する記事を一括表示出来るよう「インフォームドコンセント」のタイトル入力と、記入漏れをなくすためのテンプレート使用を指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :

: 記載内容の確認

- ① 診療記録等の作成状況を日々確認し、記載不備に関しては、その都度、記載医師や看護師等に記載完了または追記を促している。
- ② 退院時要約は、担当医が作成し、主治医が確認、診療部長が承認する。診療録の管理者は病院全体の作成状況を把握し改善に努めている。未作成の場合は督促を行う。
- ③ 「診療記録監査実施要綱」に基づき、診療記録監査を適宜実施し記載内容の確認を行っている。

: 指導の内容

- ① 診療記録管理委員会で、診療記録に関する事項について周知を図っている。
- ② 記載内容の評価結果を取りまとめ、医療安全統括会議や診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（17）名、専任（1）名、兼任（7）名

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（4）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

・医療安全統括会議、セーフティマネージメント委員会の企画・運営。

・インシデント・アクシデント・合併症の収集、分析、審議、改善策の立案・評価。

①報告事例検討委員会を1回（月曜日）/週開催。

②全死亡症例、合併症全例、アクシデント3b以上、改善策が必要と思われるインシデント事例について審議している。

③参加者：専任の医師及び兼務医師、専従薬剤師、専従看護師、専従事務。

・重大事故発生時の対応。

・全死亡事例の検証。

・医療安全マニュアルの作成・改訂・管理、携帯版医療安全マニュアルの改訂（1回/年）。

・医療安全職員研修会の企画・運営。

・診療内容のモニタリング。

①入院中の患者のPE・DVT発症症例集計。

②周術期のバリエーション報告の推進している。

③診療記録質的監査の実施中。

④RRS運営委員会にて、RRS起動全症例の検証を行っている。

医療安全管理室院内ラウンドの実施・評価

・職員の声（医療安全に関する内部通報）対応。

・高難度新規医療技術担当部門の庶務及びプロセスの遵守状況の確認・評価。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：5件申請あり、5件の許可をした。実施報告を5症例まで提出として、合併症の有無。IC用紙の確認、カルテ、手術記録、退院サマリー、画像、保険請求について申請通り施行されていたか確認をした。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（21件）、及び許可件数（21件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 診療科の長から未承認新規医薬品等の使用の申し出があつた場合、当該申し出の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品・医療機器等評価委員会（以下「委員会」という。）に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否及び使用を認める場合の条件などについて意見を求める。
 - (2) 当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否かについて、診療録等の記載内容及び当該職員の遵守状況を定期的に確認する。また、使用後に患者が死亡した場合、その他必要な場合にも、これらの確認を行う。
 - (3) 委員会が未承認新規医薬品等の使用の適否について決定したとき、又は前項の規定により当該職員の遵守状況を確認したときは、その内容について文書で病院長に報告する。
 - (4) 委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、当該診療科の長に対してその結果を通知する。
 - (5) 委員会での審査資料及び議事概要並びに当該職員の遵守状況の確認資料を、審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存する。
 - (6) 当該未承認新規医薬品等の継続使用及び中止を病院長に進言することができる。

(7) その他未承認新規医薬品等に関する必要な事項について定める。

(8) 各責任者が適応外使用医薬品等及び禁忌医薬品等の使用の可否、使用条件等について決定したときは、その決定事項について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。

(9) 医療機器安全管理責任者が既承認新規医療機器の適正な手続きに基づく使用について確認したときは、その内容について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 600 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 0 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

各診療科医師は、全死亡患者の死亡報告書を記載し、診療部長が内容を確認したものを医療安全管理室に提出。医療安全管理室で医師が全例カルテチェックし、毎週、医療安全管理責任者、医療安全管理室職員、兼務医師と審議している。また、合併症、3b 以上のアクシデントについても審議し、審議内容を、その都度管理者に提出している。早期に報告すべき事例があった場合は、速やかに管理者に報告している。審議結果を医療安全統括会議に報告し、審議が必要な事例は会議で検討している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (書面での確認) (有 (病院名：東海大医学部附属病院) ・ 無)

他の特定機能病院等への立入り (書面での確認) (有 (静岡県立静岡がんセンター) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：) 無)

・ 技術的助言の実施状況

「自己評価票に関する確認事項・質問事項と回答シート」を用い書面でのやり取りで特に技術的助言はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

○患者相談窓口を設置

【部署】 医療安全管理室

【職種】 看護師（兼任）1名、医療ソーシャルワーカー 1名、事務 7名

【時間】 平日 8：30～17：00、土曜 8：30～12：30

○相談内容の共有

- 1) 患者相談受理取扱票を作成。当該所属長および担当者へ通知し、必要に応じて解決策を協議して決定している。
- 2) 対応策上、院内で協議が必要な場合は関係者を招集してカンファレンスを開催している。
- 3) 法律上の検討が必要な事案については顧問弁護士と協議を行っている。
- 4) 紛争等の解決策の内容については、その都度病院長へ報告し決済を受けている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

※別紙参照（令和2年度 職員研修会開催状況 研修内容を職種別受講数）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理者

2020年度 特定機能病院管理者研修

医薬品安全管理責任者研修実施状況

一般社団法人日本病院薬剤師会令和2年度医薬品安全管理責任者等講習会受講 令和2年11月28日

公益財団法人日本医療機能評価機構 2020年度特定機能病院管理者研修(初回 10.5時間)受講 2020年12月24日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

認定第JC1234-3号

主たる機能：一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：Ver. 1.1

認定期間2017年1月22日～2022年1月21日

交付日 2017年4月7日

初回認定2007年1月22日（認定3回目）

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

なし

・ 評価を踏まえ講じた措置

なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

令和2年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数

1)全職員対象

2021年4月7日現在

回数・内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他の有資格者	事務員・他	
第1回 2020年度 医療放射線研修	SafetyPlus配信期間 (2020年9月15日～ 2020年12月18日)	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	全職員 (対象者数2855名) ※配信期間内に、異動、休職、退職者数 10名 未受講者数 236名	514	1091	408	596	2,609
第1回 未受講者 限定	SafetyPlus 【再】配信期間 (2020年12月28日～ 2021年1月8日)	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	未受講者 (対象者数236名) ※配信期間内に、異動、休職、退職者数 6名 未受講者数 45名	56	57	5	67	185
第1回 未受講者 限定	SafetyPlus 【再々】配信期間 (2021年1月21日～ 2021年1月31日)	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	未受講者 (対象者数45名)	13	8	0	2	23
第1回 未受講者 限定	SafetyPlus 【4回目】配信期間 (2021年2月4日～ 2021年2月19日)	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	未受講者 (対象者数22名) 未受講者数 12名	7	2	0	1	10
第1回 未受講者 限定	SafetyPlus 【5回目】配信期間 (2021年3月1日～ 2021年3月7日)	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	未受講者 (対象者数12名) 未受講者数 2名 ※配信期間内に、退職者数 1名 未受講者数 1名	9	1	0	0	10
第1回 DVD 受講者	DVDによる受講	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	未受講者 対象者数1名)	1				1
第1回 DVD 受講者	DVD貸し出し (2021年1月15日～1月 22日)	陽子線・先端腫瘍画像研究部門 (放射線科) 小林 泰之 先生	臨床検査部 (東館勤務17名)			17		17
第2回 2020年度第2回 医療安全職員研修 会	SafetyPlus配信期間 (2020年11月24日～ 2021年1月23日)	山徳 雅人 先生 (脳神経内科) 小池 栄子 先生 (本館8南病棟) 山本 飛翔 先生 (薬剤部)	全職員 (対象者数2888名) ※配信期間内に、異動、休職、退職者数 10名 未受講者数 160名	555	1090	403	667	2,715
第2回 未受講者 限定	SafetyPlus 【再】配信期間 (2021年2月4日～2021 年2月19日)	山徳 雅人 先生 (脳神経内科) 小池 栄子 先生 (本館8南病棟) 山本 飛翔 先生 (薬剤部)	未受講者 (対象者数160名) ※配信期間中に、異動、休職、退職者数 3名 未受講者数 28名	31	86	6	6	129
第2回 未受講者 限定	SafetyPlus 【再々】配信期間 (2021年3月1日～2021 年3月7日)	山徳 雅人 先生 (脳神経内科) 小池 栄子 先生 (本館8南病棟) 山本 飛翔 先生 (薬剤部)	未受講者 (対象者数28名) ※配信期間中に、異動、休職、退職者数 1名 未受講者数 1名	19	6	0	1	26
第2回 DVD 受講者	DVD貸し出し (2021年1月15日～1月 22日)	山徳 雅人 先生 (脳神経内科) 小池 栄子 先生 (本館8南病棟) 山本 飛翔 先生 (薬剤部)	臨床検査部 (東館勤務17名)			17		17
第2回 DVD 受講者	DVDによる受講	山徳 雅人 先生 (脳神経内科) 小池 栄子 先生 (本館8南病棟) 山本 飛翔 先生 (薬剤部)	未受講者 (対象者数1名)		1			1

参加者合計 5,743 人

職員一人当たり 2回 / 年

2)対象者限定研修会

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
新入職オリエンテーション 医療安全研修	2020年4月2日～ SafetyPlusによる 受講	山田 浩史 先生	新入職者 (研修医、看護師、薬剤師除く)	38	/	21	15	74
新入職オリエンテーション 医療安全研修 看護師、薬剤師	2020年4月2日	医療安全管理室 専従看護師	看護師、薬剤師	/	173	14	/	187
研修医オリエンテーション 医療安全研修	2020年4月3日	山田 浩史 先生	研修医	45	/	/	/	45
新規採用者、復職者、 異動者研修 (4月～1月22日現在)	2020年4月2日～ SafetyPlusによる 受講	山田 浩史 先生	全職員	96	43	29	96	264
看護師経年別研修(2年)	2020年11月2日 2020年11月6日 2020年11月10日	医療安全管理室 専従薬剤師	看護師	/	113	/	/	113
看護師経年別研修(3年)	2020年7月1日 2020年7月15日 2020年7月16日	医療安全管理室 専従薬剤師	看護師	/	100	/	/	100
看護師経年別研修(4年)	2020年10月15日 2020年10月19日	医療安全管理室 専従看護師	看護師	/	89	/	/	89
看護師経年別研修(5年)	2020年9月2日	医療安全管理室 専従看護師	看護師	/	53	/	/	53
補助者後期研修	2021年2月2日 2021年2月12日	医療安全管理室 専従看護師	看護助手 クラーク 保育士	/	/	/	132	132

参加者合計 1,057 人

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 医師免許を有している者（初期臨床研修修了者） ② 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ③ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・ 公表の方法 大学病院ホームページにて公表。
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・ 公表の方法 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由、管理者の選考結果、選考過程について大学病院ホームページにて一般公開。 	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
三宅 良彦	聖マリアンナ医科大学	○	副理事長	<input checked="" type="radio"/> ・無
久保田 恭司	聖マリアンナ医科大学		理事	<input checked="" type="radio"/> ・無
加藤 智啓	聖マリアンナ医科大学		医学部長	<input checked="" type="radio"/> ・無
伊東 文生	聖マリアンナ医科大学		研究科長	<input checked="" type="radio"/> ・無
平 泰彦	聖マリアンナ医科大学		大学病院顧問	<input checked="" type="radio"/> ・無
本館 教子	聖マリアンナ医科大学		大学病院看護部長	<input checked="" type="radio"/> ・無
二川 一男	外部組織		外部有識者	有・ <input checked="" type="radio"/>
益子 まり	外部組織		外部有識者	有・ <input checked="" type="radio"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算等を審議。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 各部署の所属長より審議内容について、周知徹底を行っている。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 (無) ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 (無) ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙 管理運営会議名簿参照			

2021年度 管理運営会議 出席者

組織図上の役職等		氏名	
病 院 長 ・ 副 院 長	病院長	オオツボ 大坪	タケヒト 毅人
	副院長 呼吸器内科部長 【医療安全、感染対策、機能評価、新病院建設】 呼吸器病センター長、夜間救急センター副センター長	ミネシタ 峯下	マサミチ 昌道
	副院長 整形外科部長 【病床管理、診療報酬、医療器材・薬事、教育・研修】 リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長 人工関節センター長	ニキ 仁木	ヒサテル 久照
	副院長 救急科部長 【労働安全衛生、選定療養、附属病院間連携、保育園】 救命救急センター長、看護師特定行為研修センター	フジタニ 藤谷	シゲキ 茂樹
	副院長 循環器内科部長 【IT化推進、診療情報、地域連携、臨床倫理】 救命救急センター副センター長、メディカルサポートセンター長	アカシ 明石	ヨシヒロ 嘉浩
	副院長 看護部長 【看護・病床管理担当】	モトダテ 本館	ナリコ 教子
病 院 顧 問	病院顧問	タイラ 平	ヤスヒコ 泰彦
診 療	総合診療内科部長 内科総合診療部長	マツダ 松田	タカヒデ 隆秀
	消化器・肝臓内科部長	イトウ 伊東	フミオ 文生
	腎臓・高血圧内科部長 腎臓病センター長、クリニカルエンジニア部副部長	シバガキ 柴垣	ユウゴ 有吾
	代謝・内分泌内科部長 糖尿病センター長、内分泌疾患センター長	ソネ 曾根	マサカツ 正勝
	脳神経内科部長 脳卒中センター長、ゲノム医療推進センター長 パーキンソン病治療センター長、てんかんセンター副センター長	ヤマノ 山野	ヨシヒサ 嘉久
	血液内科部長 輸血部長	アライ 新井	アヤコ 文子
	リウマチ・膠原病・アレルギー内科部長 リウマチ・膠原病生涯治療センター長 人工関節センター副センター長	カワハタ 川畑	キミト 仁人
	腫瘍内科部長 腫瘍センター長、ゲノム医療推進センター副センター長	スナカワ 砂川	ユウ 優
	神経精神科部長 精神療法・ストレスケアセンター長	コチャ 古茶	ヒロキ 大樹

2021年度 管理運営会議 出席者

部 門	小児科部長 こどもセンター長、てんかんセンター長、 リウマチ・膠原病生涯治療副センター長、救命救急副センター 看護師特定行為研修センター副センター長	シミズ 清水	ナオキ 直樹
	新生児科部長 総合周産期母子医療センター長	ホクウ 北東	イサム 功
	消化器・一般外科部長 中央手術部副部長	ミカミ 民上	シンヤ 真也
	心臓血管外科部長 ハイブリッド心臓大動脈治療センター長、ハートセンター副センター	ミヤイリ 宮入	タケン 剛
	呼吸器外科部長 呼吸器病センター副センター長	サジ 佐治	ヒサシ 久
	小児外科部長 臨床研修センター長、総合周産期母子医療センター副セン ター長、こどもセンター副センター長	フルタ 古田	シゲユキ 繁行
	乳腺・内分泌外科部長 遺伝診療部長、腫瘍センター副センター長	ツ ガワ 津川	コウイチロウ 浩一郎
	脳神経外科部長 脳卒中センター副センター長	タナカ 田中	ユウイチロウ 雄一郎
	形成外科部長	カジカワ 梶川	アキヨシ 明義
	皮膚科部長 診療記録管理室長	カドノ 門野	タカフミ 岳史
	腎泌尿器外科部長	キクチ 菊地	エイジ 栄次
	産科・婦人科部長 腫瘍センター副センター長、生殖医療センター長	スズキ 鈴木	ナオ 直
	眼科部長	タカギ 高木	ヒトシ 均
	耳鼻咽喉科部長	コイツカ 肥塚	イズミ 泉
	放射線診断・IVR科部長 画像センター長	ミムラ 三村	ヒデフミ 秀文
	放射線治療科部長 放射線治療センター長	ナカムラ 中村	ナオキ 直樹
	麻酔科部長 クリニカルエンジニア部長、脊椎センター副センター長	イノウエ 井上	ソウイチロウ 莊一郎
	病理診断科部長	コイケ 小池	ジュンキ 淳樹
	リハビリテーション科部長 リハビリテーションセンター長、脊椎センター副センター長 人工関節センター副センター長	ササキ 佐々木	ノブユキ 信幸
	緩和ケア科 緩和ケアセンター長	ハングチ 橋口	さおり
病理診断科技術課長	オオカワ 大川	チエ 千絵	
病 院 長 直 轄	医療安全管理室長 消化器・肝臓内科副部長、内視鏡センター長	ヤスダ 安田	ヒロシ 宏
	医療安全管理室主幹	ウチカワ 内川	タカコ 隆子
	医療安全管理室課長	キタハラ 北原	ケイコ 圭子
	感染制御部長 感染症センター副センター長	タケムラ 竹村	ヒロム 弘

2021年度 管理運営会議 出席者

診療施設部門	ハートセンター長 循環器内科副部長、クリニカルエンジニア部副部長	ハラダ 原田	トモオ 智雄
	心不全センター長	イシバシ 石橋	ユウキ 祐記
	肝疾患医療センター長 臨床検査部副部長	ワタナベ 渡邊	ツナマサ 綱正
	脊椎センター長 整形外科副部長	アカザワ 赤澤	ツトム 努
	認知症（老年精神疾患）治療研究センター長	カサヌキ 笠貫	コウジ 浩史
	統合失調症治療センター長 精神療法・ストレスセンター副センター長	アンドウ 安藤	クミコ 久美子
	リハビリテーションセンター参与	ワタナベ 渡辺	サトシ 敏
	感染症センター長 感染制御部副部長	クニシマ 國島	ヒロユキ 広之
	夜間急患センター長 救急科副部長、心不全センター副センター長	ヨシダ 吉田	トオル 徹
	健康診断センター長	ハラ 原	マサシ 正壽
診療協力部門	臨床検査部長	ノブオカ 信岡	サチヒコ 祐彦
	臨床検査部参与 臨床検査部副部長	ヤマザキ 山崎	サトシ 哲
	超音波センター長	イズモ 出雲	マサキ 昌樹
	画像センター技術課長	モリ 森	ジュイチ 寿一
	中央手術部長 麻酔科副部長	サカモト 坂本	ミキ 三樹
	臨床検査部技術技術課長（輸血部）	イノ 井野	ちさと
	クリニカルエンジニア部主査	サトウ 佐藤	ケンジ 賢治
医療支援管理部門	薬剤部参与	サカウエ 坂上	イッコウ 逸孝
	栄養部長	シバタ 柴田	みち
	メディカルサポートセンター課長	ホンダ 本田	カズトシ 和俊
	治験管理室長	マツモト 松本	ナオキ 直樹
	治験管理室課長	ミヤザキ 宮崎	カンナ
	放射線管理室長	マエハラ 前原	ヨシアキ 善昭
	移植医療支援室長	ナワタ 縄田	カン 寛
	診療記録管理室課長	モロト 諸戸	マユミ 真由美

2021年度 管理運営会議 出席者

事務部門	事務部長	ネヅ 根津	ヤスヒロ 保廣
	事務部次長	アンドウ 安藤	あゆ
	管理課課長	クサナギ 草薙	タクヤ 拓也
	医事課課長	コイソ 小磯	アキオ 晃生
その他事務部門	病院経営管理室長	カワセ 川瀬	ヒロカズ 弘一
	総務部課長	オクシマ 奥島	ヒデアキ 英明
	人事部部長	スガハラ 菅原	トシヤ 敏弥
	財務部財務課課長	ムラタ 村田	タケシ 武司
	施設部施設環境課課長	キタバヤシ 北林	マサヒコ 正彦
	調達部参事兼購買・物品管理課課長	エンドウ 遠藤	トシヤ 俊弥
	I T 戦略推進室室長	シモヒラ 下平	ヒデフミ 秀文
	臨床研修センター課長	ササキ 佐々木	トオル 亨
	看護師特定行為研修センター副センター長	タカノ 鷹野	イクヨ 郁与

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容。具体的には、病院業務の総括者として、病院の管理運営に必要な人事及び予算の執行権限を有する旨を明記している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長（5名）がそれぞれの役割を担い、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは予め指名された副院長がその職務を代理し、病院長が欠けたときはその職務を行う。
病院顧問は、本院の業務遂行に関し、管理者に助言することができる。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
「中堅事務職員研修会」、「管理者対象医療安全研修」、「評価者研修会」

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理業務の執行状況に関する監査 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表。 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
別紙	監査委員会名簿参照			有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

聖マリアンナ医科大学病院 監査委員会名簿

医療安全管理業務の執行状況を監査するために、委員長及び委員の過半数が当院と利害関係のない監査委員会を設置いたしました。
(医療法施行規則第15条の4第1項第2号に基づく委員会) (令和3年4月1日)

開設者(理事長) 明石 勝也

氏名	所属・役職	委員	選定理由	利害関係	委員の要件
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 山本柴崎法律事務所 弁護士	委員長 (外部委員) 再任	一橋大学教授、九州大学・北海道大学等多数の大学の講師及び司法研究所講師等の教職、日本民事訴訟法学会、日本私法学会及び仲裁ADR学会等の理事、法制審議会幹事・臨時委員、下級裁判所裁判官指名諮問委員会委員、最高裁判所民事規則諮問委員会委員及び司法試験考査委員等の法律立案・法曹養成等の公職、学校法人藤村学園副理事長を歴任し、さらに長年にわたってカンボディア王国及び中華人民共和国の法整備の支援に尽力され、日本を代表する民事訴訟法学者である。 また、平成21年には本院の医療事故調査委員会外部委員を務めたほか、医療事故を代表する判例の解説(「ルンバール事件」)民事訴訟法判例百選第4版)を著すなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク会 顧問	委員 (外部委員) 再任	文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行っている。 また、一般の立場を代表する者として、他医療機関の倫理委員や本学の生命倫理委員会特定認定再生医療部会委員を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授	委員 (外部委員) 再任	心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。 インфекションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。 感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
益子 まり	川崎市非常勤嘱託産業医	委員 (外部委員) 再任	小児科医として実務経験後、地域の医療行政を推進、川崎市保健所長を務める。医療現場で医療安全に関する法律が適切に実施されているのを監督する立場にあり見識を有する。川崎市内の特定機能病院である当院の医療安全の実施に指導的役割を担ってこられた経験があり、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
中尾 智彦	内部監査室 室長	委員 (内部委員) 再任	法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 毎月開催している常任役員会において、メンバーである大学病院長より病院の経営について報告を行い、そのことについて意見を交わしている。また、病院内における組織改編や各部門長の変更についても審議を行い、議決を得ることを決まりとしており、大学病院が適切に運営されるよう法人が監督している。
- ・ 会議体の実施状況（ 年12回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年12回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法
 学内イントラネットや学内報による周知

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：常任役員会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
明石勝也	聖マリアンナ医科大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
北川博昭	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
三宅良彦	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
大坪毅人	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
加藤智啓	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
鈴木宣男	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
近藤浩志	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
小宮 清	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
山本真士	〃		<input checked="" type="radio"/> 有・無
福嶋弘榮	外部機関		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
清水 至	〃		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 個人が特定されないよう無記名、鍵付きポストへの提出。・ 職員ハンドブック (携帯版医療安全マニュアル・第15版) に記載し、医療安全研修や医療安全管理室ラウンドで周知している。・ 学内イントラネットによる周知。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページにおける情報発信。病院案内のページに先進医療や専門外来を掲載。</p> <p>講演会開催や、地域医療施設へパンフレット「地域の輪」を配布。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>診療科間において、診療依頼票による書面での依頼を行う。</p> <p>合同カンファレンスの実施や電子カルテにより情報共有し、連携して対応に当たっている。</p> <p>センター化することにより、複数科でのチーム医療を実施。</p>	

(様式第 8-3)

聖医大管 第 393 号
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|--|
| <p>① 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院 3 による評価</p> <p>2 Joint Commission Internationalが実施する、J C I 認証による評価</p> <p>3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価</p> |
|--|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

<p>機能種別評価項目 一般病院 3 <3rdG : Ver. 2.0></p> <p>更新受審月予定 2022年3月</p>
